

第131回 信州整形外科懇談会

日本整形外科学会認定教育研修講演

(日整会 専門医1単位)

講師：JA 広島総合病院 整形外科

脊椎・脊髄センター長・主任部長 山田清貴先生

演題：骨粗鬆症性椎体骨折に対する椎体形成術の適応と限界

日時：2023年8月26日(土) 13:00～

会場：豊科交流学習センター「きぼう」

参加費：3,000円(初期研修医・コメディカル；1,000円)

(参加には事前の申し込み、参加費振り込みが必要になります。当日は本プログラム送信の際に添付してあるご芳名カードを記載の上、会場入り口にてご提出をお願いいたします。ご芳名カードの提出をもって参加受付とさせていただきます。)

抄録掲載料：1,000円(発表者)

単位申請料：1,000円(日整会教育研修単位取得希望の場合、事前に単位申し込み、単位料振り込みが必要になります。申し込み時に日整会の会員番号が必要となります。)

単位の認定は当日、会場にてカードリーダーで行います。日整会カードをお持ちください。

発表：1例報告1題4分、その他5分、討論2分、パソコン単写

抄録：信州医学雑誌に掲載されます。

当番幹事 安曇野赤十字病院 整形外科

泉水 邦洋

信州大学整形外科懇談会事務局

TEL 0263-37-2659(直通) FAX 0263-35-8844

共催 信州整形外科懇談会／科研製薬株式会社

参加方法と発表形式について

信州整形外科懇談会 入力フォーム

<https://forms.gle/ZDBqSeViwBBaZtqz8>



参加申し込み Google フォーム入力締め切り： **2023年8月16日(水)**

参加方法

Google フォーム <https://forms.gle/ZDBqSeViwBBaZtqz8> より必要事項を入力後に、金額を確定して事務局よりメールにてお振込みを依頼いたします。指定された金額を下記口座へ**お名前のみ**を御明記の上お振込みください。

八十二銀行 信州大学前支店 普通口座 142543
口座名義：信州整形外科懇談会事務局

参加費振り込み締め切り： **2023年8月18日(金)12:00(正午)**

※手続きの都合上、申し込み、振り込みは早めに設定されています。ご協力をよろしくお願いいたします。

※会費振り込み後、当日不参加となった場合、参加費は返金いたしますが、振込手数料を引いた金額での返金となります。

発表者の方へ

① 発表用 PowerPoint ファイル

ファイル提出用 Google フォルダ内に提出してください。

発表用ファイルの提出締め切り： **2023年8月21日(月)**

※発表用ファイルを共催の**科研製薬株式会社**で確認するため、**締め切り厳守**でお願いいたします。

② 信州医学雑誌用の抄録(本文 400 文字)

ファイル提出用 Google フォルダ内の「信州医学雑誌用抄録ひな形(400 字)」(Word ファイル)に上書きして信州医学雑誌用の抄録を作成してください。

抄録には演題名、所属、演者名、400 字以内の本文をご記入お願いします。

信州医学雑誌用抄録提出締め切り： **2023年8月26日(土)**

製品紹介 (13:00~13:10)

腰椎椎間板ヘルニア治療剤 ヘルコニア椎間板注用 1.25 単位 科研製薬株式会社

下肢 (13:10~14:15)

座長：下平 浩揮

1. 当科におけるステム周囲骨折 Vancouver type B2 に対する治療経験

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

○奥田 翔、野村博紀、小山勇介、畑 宏樹、外立裕之、丸山正昭

近年の高齢者人口の増加、人工骨頭置換術や人工関節置換術の増加に伴い、インプラント周囲骨折は増加の傾向にある。当科において Vancouver type B2 の骨折に対してセメントステムを用いて再置換術を行った4例について報告する。

2. *踵骨骨折に合併した足部コンパートメント症候群の1例

伊那中央病院 整形外科

○井上慶太、原 一生、奥原大生、荻原伸英、比佐健二、樋代洋平、小池 毅

足部コンパートメント症候群は比較的稀な疾患で、我々は踵骨骨折に合併した足部コンパートメント症候群を経験した。臨床所見から疑い、内圧測定で高値を認め減張切開を施行した。術後は合併症なく経過している。

3. *高度骨棘を伴う変形性膝関節症に対する TKA で 3D プリンターによる模型作成が有用であった1例

長野松代総合病院 整形外科¹⁾

信州大学 リハビリテーション部²⁾

水谷病院³⁾

○宮澤 駿¹⁾、豊田 剛¹⁾、中村順之¹⁾、堀内博志²⁾、水谷康彦³⁾、中井亜美¹⁾、尾崎猛智¹⁾、望月正孝¹⁾、松永大吾¹⁾、北原 淳¹⁾、瀧澤 勉¹⁾

77歳女性、両膝 OA に対して両側 TKA 施行。著明な骨棘形成があったが、3D プリンターで立体模型を作製、術野で参照し的確に骨棘切除できたことで、骨性指標を見失わず通常通りの手技で TKA を施行し得た。

4. *原因不明の膝関節内反不安定症例に対して高位脛骨骨切り術にて対応した1例

信州大学 整形外科

○小田多井俊介、天正恵治、前角悠介、熊木大輝、吉田和薫、下平浩揮、堀内博志、高橋 淳

23歳男性、右膝不安定感と疼痛を主訴に受診した。外側側副靭帯損傷による内反不安定性と内反アライメントを認める膝関節に対して高位脛骨骨切り術(OWDTO)を施行し、症状が改善した1例を報告する。

5. 初回股関節骨折後二次骨折を引き起こしやすい高齢者の特徴

岡谷市民病院 整形外科

○内田美緒、田中 学、日野雅人、春日和夫、内山茂晴

股関節骨折は骨粗鬆症患者や高齢者で起こりやすく、初回股関節骨折後数年以内に二次性の股関節骨折を起こすことがある。本研究の目的は、高齢者における二次性股関節骨折の危険因子について検討することである。

6. 大腿骨転子部骨折術後の早期デノスマブ投与は骨癒合を遅らせるか？

岡谷市民病院 整形外科¹⁾

かもいクリニック²⁾

信州大学 放射線科³⁾

信州大学 整形外科⁴⁾

○日野雅仁¹⁾、田中 学¹⁾、鴨居史樹²⁾、上甲巖雄¹⁾、春日和夫¹⁾、塚原嘉典³⁾、高橋 淳⁴⁾、内山茂晴¹⁾

脆弱性骨折後の早期骨粗鬆症治療は重要であるが、デノスマブ早期投与による骨折治癒への影響は未だはっきりとしていない。大腿骨転子部骨折術後のデノスマブ投与群の骨癒合率をBP投与群と比較検討を行った。

7. 人工股関節置換術における骨盤前後傾の評価 ―正面側面の相関関係に着目して―

南長野医療センター篠ノ井総合病院 整形外科

○野村博紀、奥田 翔、畑 宏樹、小山勇介、外立裕之、丸山正昭

人工股関節置換術後、短期における骨盤前後傾変化を腰椎前弯、骨盤正面側面レントゲン評価の相関関係に着目しながら検討する。

8. *踵骨 beak fracture にアキレス腱付着部断裂を合併した1例

諏訪赤十字病院 整形外科

○善賤未結、中川浩之、青木哲宏、岩浅智哉、上甲巖雄、倉石修吾、小林千益

80歳女性、右踵骨 beak fracture に対して観血的整復固定術を施行した。術中アキレス腱付着部の断裂を認めたため、急遽アキレス腱の踵骨への pullout 固定を追加した。

上肢 (14 : 15～15 : 05)

座長：北村 陽

9. *舟状・月状・三角骨複合骨折の1例

相澤病院 整形外科

○谷川悠介、山崎 宏、小平博之、大柴弘行、清野繁宏、成田伸代、柳澤架帆、古泉啓介、保坂正人

22歳男性の手関節過伸展受傷した、月状骨周囲損傷としては稀な複合骨折：舟状骨腰部・月状骨掌側橈側の裂離・三角骨体部骨折を報告する。

10. SLAC wrist に対し four corner fusion を施行した2例

長野市民病院 整形外科

○百瀬陽弘、松田 智、福澤耕介、橋本 瞬、藍葉宗一郎、新井秀希、藤澤多佳子、中村 功

SLAC wrist をきたした2例（男性2例、平均年齢 57.5歳）に対し four corner fusion を施行した。2例とも骨癒合を達成し、前職に復帰可能となった症例を経験したので報告する。

11. *上腕骨外顆骨折術後に遅発性橈骨頭後方脱臼を生じた Ehlers-Danlos 症候群の1例

相澤病院 整形外科¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

○古泉啓介¹⁾、柳澤架帆¹⁾、谷川悠介¹⁾、磯部文洋²⁾、成田伸代¹⁾、清野繁宏¹⁾、大柴弘行¹⁾、保坂正人¹⁾、小平博之¹⁾、山崎 宏¹⁾、

上腕骨外顆骨折術後に尺骨の骨幹部背側凸変形と橈骨頭の遅発性後方脱臼が判明した Ehlers-Danlos 症候群の1例（15歳女性）を報告する。

12. TFCC 尺骨小窩部損傷に対する鏡視下 inside-out 縫合法の治療経験

信州大学 整形外科

○小林誉典、林 正徳、岩川紘子、宮岡俊輔、北村 陽、磯部文洋、阿部雪穂、高橋 淳

当科では2020年より TFCC 尺骨小窩部損傷に対し鏡視下 inside-out 縫合法による治療を行ってきた。今回本術式について概説するとともに、その術後成績を報告する。

13. *豆状三角骨関節症により小指深指屈筋腱断裂を発症した1例

飯田市立病院 整形外科

○中村駿介、伊坪敏郎、永井亮輔、林 幸治、畑中大介、伊東秀博

72歳女性、剪定ばさみ作業後から小指が曲がらないことを自覚。精査の結果、豆状三角骨関節症による小指深指屈筋腱断裂の診断にて手術加療を施行した。長掌筋腱移植を施行し術後リハビリテーションを施行中である。

14. 腱板縫合術における縫着位置の内側化が術後長期成績に与える影響

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○小田切優也、畑 幸彦、太田浩史、石垣範雄、中村恒一、向山啓二郎、狩野修治、川上 拓、伊藤慎太郎

一次修復困難な腱板断裂に Partial repair 法施行後 10 年以上経過した 101 肩において、腱板断端を footprint より内側に縫着する手技は、術後 10 年時の外転可動域と外旋筋力を有意に低下させた。

<休憩 20 分>

腫瘍 (15 : 25~16 : 00)

座長 : 田中 厚誌

15. *母指球部悪性軟部腫瘍広範切除後に血管柄付き肩甲骨移植・傍肩甲皮弁を用いて再建した 1 例

信州大学 整形外科

○木下哲史、鬼頭宗久、宮岡俊輔、岡本正則、青木 薫、田中厚誌、出田宏和、小松幸子、高橋 淳

6 歳男児。右母指球部低悪性度線維粘液肉腫不適切切除後に、追加広範切除を行い、二期的に血管柄付き肩甲骨移植・傍肩甲皮弁・腱移植による再建術を行った。同腫瘍の特徴・再建術の詳細・術後機能について報告する。

16. 手掌部腫瘍による弾発指の 2 例

北アルプス医療センターあづみ病院 整形外科

○伊藤慎太郎、中村恒一、太田浩史、石垣範雄、向山啓二郎、狩野修治、小田切優也、川上 拓、畑 幸彦

指の弾発現象は A1 pulley 部で起こることが多いとされるが、それ以外の部位に起因する弾発指は正しく診断されないと不要な治療を行う恐れがある。今回手掌部の腫瘍による弾発指の稀な 2 症例を経験したので報告する。

17. 小児・AYA 世代の骨肉腫に対する治療開始までの経過と予後に関する考察

信州大学 整形外科¹⁾

鹿教湯三才山リハビリテーションセンター 鹿教湯病院 整形外科²⁾

まつもと医療センター 整形外科³⁾

信州上田医療センター 整形外科⁴⁾

○樽田大輝¹⁾²⁾、小松幸子¹⁾、出田宏和¹⁾、田中厚誌¹⁾、鈴木周一郎³⁾、
鬼頭宗久¹⁾、岡本正則¹⁾、高沢 彰⁴⁾、吉村康夫⁴⁾、高橋 淳¹⁾

小児・AYA 世代の骨肉腫は、自覚症状の出現から専門医受診、診断、治療開始までに時間を要することも多い。当院で治療を行った小児・AYA 世代の骨肉腫 19 例における、治療開始までの経過とその予後への影響を評価した。

18. ＊生検で良悪性の判断が困難だった大腿軟部腫瘍に対して広範切除術を行った 1 例

安曇野赤十字病院 整形外科¹⁾

信州上田医療センター 整形外科²⁾

飯田市立病院 整形外科³⁾

○千年亮太¹⁾、高沢 彰²⁾、中村駿介³⁾、赤羽 努²⁾、吉村康夫²⁾

生検で良悪性診断が確定しない症例の方針決定は悩むことがある。73 歳女性の大腿外側広筋内腫瘍で組織では良悪性を確定できず、経過と画像所見で低悪性度肉腫と術前診断し広範切除術を行った症例について考察する。

脊椎 (16 : 00～17 : 10)

座長：鎌仲 貴之

19. ＊咽後膿瘍と鑑別を要した石灰沈着性頸長筋腱炎の 1 例

安曇野赤十字病院 整形外科

○小岩 海、鎌仲貴之、千年亮太、林 大右、泉水邦洋

石灰沈着性頸長筋腱炎は急激な頸部痛、咽頭痛、嚥下痛や頸部可動域制限を伴い、咽後膿瘍や化膿性脊椎炎と鑑別を要する比較的稀な疾患であり、診断に時間を要する場合がある。当院で経験した石灰沈着性頸長筋腱炎の 1 例を報告する。

20. 当院で経験した仙腸関節炎の 2 例

飯田市立病院 整形外科

○永井亮輔、畑中大介、中村駿介、林 幸治、伊坪敏郎、伊東秀博

仙腸関節炎は腰痛や下肢痛の原因となる疾患ではあるが、その診断には難渋することも多い。今回我々は仙腸関節炎と診断し加療を行った 2 例を経験したので、文献的な考察を交えて報告する。

21. *初診時には損傷が明らかでなく、後に後弯変形が進行し脊髄症状をきたした頸椎損傷の
1例

信州大学 整形外科

○関 駿一、畠中輝枝、笹尾真司、黒河内大輔、宮岡嘉就、上原将志、池上章太、
大場悠己、高橋 淳

53 歳男性、高所から転落し非骨傷性頸髄損傷の診断で経過観察となった。徐々に頸椎後弯変形と脊髄症状が進行し、受傷後約 8 か月時に頸椎前後方固定を要した。文献的考察を加えて報告する。

22. 腰椎手術におけるドレーン留置法の工夫と検討 第 2 報

国保依田窪病院 整形外科¹⁾

信州大学 リハビリテーション部²⁾

○泉水康洋¹⁾、滝沢 崇¹⁾、池上章太²⁾、由井睦樹¹⁾、古作英実¹⁾、重信圭佑¹⁾、
三澤弘道¹⁾

第 130 回信州整形外科懇談会において、腰椎手術のドレーンの留置法の工夫とその結果について報告した。今回、症例数および検討項目を増やし、ドレーン留置法による違いについて更なる比較検討を行ったので報告する。

23. *成人男性に生じた原発性骨粗鬆症による非外傷性椎体骨折の 1 例

伊那中央病院 整形外科

○奥原大生、比佐健二、井上慶太、原 一生、荻原伸英、樋代洋平、小池 毅

42 歳男性。非外傷の背部痛で第 9 胸椎椎体骨折を認めた。生来健康で、悪性腫瘍の骨転移や続発性骨粗鬆症を念頭に精査するも、異常は認めなかった。原発性骨粗鬆症の診断で治療し、1 年時点で経過良好である。

24. 頸椎術後遅発性 C5 麻痺発症例と非発症例の比較検討

長野市民病院 整形外科¹⁾

信州大学 整形外科²⁾

○福澤耕介¹⁾、上原将志²⁾、池上章太²⁾、大場悠己²⁾、宮岡嘉就²⁾、畠中輝枝²⁾、
黒河内大輔²⁾、笹尾真司²⁾、高橋 淳²⁾

頸椎術後の 433 例を対象に術後 C5 麻痺の発症率を調査し、C5 麻痺群と非 C5 麻痺群で手術関連因子、血液検査所見、併存症を比較した。C4/5 が手術範囲に含まれることが C5 麻痺の発症と有意な関連を示した。

25. *頸椎前縦靭帯骨化症に対して手術を施行した 1 例

国保依田窪病院 整形外科

○中西真也、滝沢 崇、由井睦樹、古作英実、重信圭佑、泉水康洋、三澤弘道

頸椎前縦靭帯骨化症で手術を要する症例は非常に稀であり、case report での報告も少ない。今回我々は頸椎前縦靭帯骨化症に対して手術を施行した 1 例を経験したので報告する。

26. ***頰椎椎弓形成術後に椎間板ヘルニアが生じ前方後方固定を要した透析脊椎症の1例**

信州大学 整形外科

○政田啓輔、笹尾真司、池上章太、上原将志、大場悠己、畠中輝枝、宮岡嘉就、黒河内大輔、関 駿一、高橋 淳

症例は透析歴 10 年の 55 歳女性。頰髄症に対して椎弓形成術を行ったが、術後 1 年で頰椎椎間板ヘルニアにより頰髄症が急性増悪し前方後方固定を要した。透析脊椎症に関する若干の文献的考察を加えて報告する。

27. ***Chance 骨折に対し BKP 単独で治療した 1 例**

安曇野赤十字病院 整形外科

○千年亮太、泉水邦洋、小岩 海、鎌仲貴之、林 大右、澤海明人

84 歳女性。第 12 胸椎椎体骨折 (TL AOSIS 分類 type B2) に対し balloon kyphoplasty (BKP) 単独で治療した 1 例を経験した。本来は椎弓根スクリューでの固定も選択肢として考えられたが、より低侵襲な BKP で良好な経過を得られたので報告する。

教育研修講演

(17:30～18:30)

講師： 山田 清貴 先生

JA 広島総合病院 整形外科

脊椎・脊髄センター長・主任部長

演題： 骨粗鬆症性椎体骨折に対する椎体形成術の適応と限界

座長 高橋 淳 先生

信州大学医学部 運動機能学教室 教授

認定単位： 日本整形外科学会専門医資格継続 1 単位

([4] 代謝性骨疾患 (骨粗鬆症を含む)、[7] 脊椎・脊髄疾患
または認定脊椎脊髄病医 (SS))

事前に単位申し込み、単位料振り込みが必要になります。当日の対応はいたしかねます。

※単位の認定は当日、会場にてカードリーダーで行います。日整会カードをお持ちください。

終了後、安曇野赤十字病院会議室で懇親会を行います。
会費は不要です。多数の先生方のご出席をお待ちしております。

豊科交流学習センター「きぼう」のご案内

〒399-8205 長野県安曇野市豊科 5609 番地 3

URL : <https://www.city.azumino.nagano.jp/site/kibo/>

